



ご当地 **よ坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.576

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

April
2017 4
平成29年



Contents

デンタルアイ	1
理事会報告	3
会務日誌	5
医療管理委員会	11
センターだより	13
女性歯科医会だより	16
同窓会だより	17
専門学校だより	19
地区歯科医師会だより	23
関 隆	
ピンクのエプロン	30
会田 雅江	
リレー通信	31
小野寺 宣夫	
会員の異動	33
国保組合 NEWS	35
赤えんぴつ	46

表紙写真について

守谷のTX線路から筑波山を望む

西の富士、東の筑波と愛唱され、一日で山肌の色を変えることから紫峰とも呼ばれる筑波山。そのふもとであるつくばまで秋葉原から繋いでいるつくばエクスプレスはわずか45分の間に賑やかな都会から心安らぐ自然までつないでおり、東京と茨城をぐっと近づけています。守谷から先は常磐線と同様直流電化と交流電化を隔てるデッドセクションのポイントであり、TXにとっても重要な地点となります。その茨城が誇れる2つのシンボルを合わせた地點からの一枚写真。

(社)茨城県南歯科医師会 中里 憲文

平成27年度指導・監査実施状況等 について



常務理事
榎 正 幸

厚生労働省は平成27年度における保険医療機関等の指導・監査等の実施状況を昨年12月20日付で公表しました。指導・監査により保険医療機関から返還を求めた額は合計124億4千万円で、そのうち歯科は約4億1千万円となっています。指導・監査の実施状況を見ますと、歯科個別指導は1331件。取消等の状況では歯科保険医療機関等では、指定取消歯科11件、取消相当15件、歯科保険医等では、歯科医師15人、取消相当3人。原因は、架空請求、付増請求、振替請求、二重請求がほとんどでありました。医療機関が保険診療を行っていく場合は、当然、健康保険法等に従って診療を行わなければなりません。健康保険法には「保険医療機関は療養の給付に関し、保険医は健康保険の診療に関し、厚生労働大臣の指導を受けなければならない」と定められています。また「厚生労働大臣は、療養の給付に関して保険医療機関等に報告、診療録の提出・提示を命じ、保険医療機関等に出头を求め診療録等の検査をさせることができる」としています。これらを受けて厚生労働省保険局長通知の「指導大綱」「監査要綱」という形で、指導・監査を具体的にどのように実施するか、その内容が定められています。指導大綱・監査要綱とも、どちらもその目的は「保険

診療の質的向上及び適正化を図ること」となっています。保険診療を行っていくには、療養担当規則に則って診療を行い、診療報酬点数表に則り請求をしなければなりません。指導・監査とはこれらが適正に行われるためのチェックであり、ルールを周知徹底し、それらが守られるように適時に適切な指導を行うとされています。指導・監査で困らないためとして、一言でいえば、正しい診療に基づく正確なカルテ記載・それを忠実に反映した診療報酬請求といったことに尽きます。今、社会保険を取り巻く状況下では少子高齢化社会であり、現在は20歳から64歳の方々は、2.6人で1人の65歳以上の高齢者を支え、将来的には1.2人で1人を支えていくような人口構成に変化することが予測されます。歯科では幼若年者では一人平均カリエス本数減少、高齢者では残存歯数増加。一方では、歯科の患者数割合は、65歳以上で平成2年では13%、平成26年では40%を超えて、歯科の診療報酬改定にも政府基本方針に基づき如実に表れてきています。最近公表された国民医療費は40兆円を超え歯科医療費は約2.8兆円。医療費全体は増加傾向ではありますが、歯科医療費割合は7%弱であります。また歯科医療費と歯科医師数の推移は昭和30年から平成25年の間に約3倍

に増加、当時と比較して歯科医療費は約2倍に伸びていますが、医療費の伸びより歯科医師数が増加し一人当たりの医療費は少なくなるのは当然であります。最近の傾向では、レセプト1件当たりの総点数減少、患者数は増加傾向であり総点数は増加傾向のような感じであります。今後少子高齢化による患者数が減少となれば歯科医療費もかなり減少する傾向になると危惧さ

れます。そこで平成29年3月茨歯会社会保険部では、懸案であった「保険請求のQ&A」改訂版を発刊しました。近年少子高齢化時代になり医療保険制度改革が着実に進行し、歯科医療界は厳しい時代となってきております。会員の皆様方には本篇を活用していただき、誤りのない保険請求をしていただければ幸甚です。



株式会社 岩瀬歯科商会



岩瀬歯科商会 株式会社
iwase Dental Supply Inc.

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

イワセオリジナルユニット

SIGNO NEXT

こだわりと好みをひとつずつ反映しながら、ワンランク上のラグジュアリー空間と心地よさを演出します。

■ 一般社名 株式会社岩瀬歯科商会

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

■ 代表取締役 岩瀬 浩二

製造販売・製造

株式会社モリタ東京製作所

本社〒100 埼玉県さいたま市中央区上落合2-1-24 TEL.048-852-1315

伊原工場 埼玉県北足立郡伊原町小室7129 TEL.048-723-2621

発売

株式会社モリタ

大阪本社 大阪府吹田市豊水區3-33-18 TEL.06-6380-2525

東京本社 東京都台東区上野2-11-15 TEL.03-3834-6161

事業所案内

本社	台東区台東2-23-7	TEL.03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL.028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL.029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL.047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL.043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL.03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL.0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL.024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL.03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11	TEL.03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL.045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	NEW TEL.045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL.027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	NEW TEL.027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL.046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL.048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL.019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL.042-590-5770

理事会報告

第12回理事会

日時 平成29年3月16日（木）午後4時

場所 茨城県歯科医師会館 会議室

1. 報 告

- (1) 一般会務報告
- (3) 常総市医療福祉費支給制度（市単独事業分）の対象範囲の拡大に伴う取扱いについて
- (4) 【日立総合病院】講演会の後援に関する申請について
- (5) 後期高齢者歯科健康診査について
- (6) 平成28年度茨城県エイズ対策委員会報告書
- (7) 茨城歯科専門学校役員人事について
- (8) 3月開業予定の歯科医院について
- (9) 疾病共済金の支払いについて
- (10) 平成28年分所得税青色申告決算書の調査について
- (11) 日歯と関東地区歯科医師会の施設使用に関する相互協定について
- (12) 各委員会報告について
 学術委員会、医療管理委員会、介護保険委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、スポーツ健康づくりPT委員会、専門学校

2. 協議事項

- (1) 入会申込の受理について
 吉田 司氏（土浦石岡）、
 窪田 弘幸氏（土浦石岡）、
 沼尻 博之氏（つくば）、
 丸山 容子氏（準会員）、
 大森 翔英氏（準会員）

の入会を受理した。

- (2) いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会総会について
 標記協議会総会について、承認した。
- (3) 茨城県市町村職員共済組合歯周病健診について
 標記健診について、結果報告書を作成しないことについて承認した。
- (4) 健康フォーラムについて
 標記フォーラムについて承認した。
- (5) 平成29年度事業計画（案）について
 標記事業計画について、承認した。
- (6) 平成29年度設備投資の見込みについて
 標記設備投資について、承認した。
- (7) 平成29年度予算（案）について
 標記予算について、承認した。
- (8) 会員功労賞について
 標記会員功労賞について、承認した。
- (9) 永年勤続従業員について
 標記永年勤続について、承認した。
- (10) 永年勤続職員について
 標記永年勤続について、承認した。
- (11) 歯科業者との災害時協力活動に係る協定書等の検討会について
 標記について茨歯会の内規を作成することについて承認した。
- (12) 口腔センター土浦新築工事指名競争入札の実施について
 標記入札について、承認した。
- (13) 平成29年度学術シンポジウム（7月2日）予備委員・講師謝礼について
 標記講師謝礼について、承認した。

(14) 無料職業紹介所の求人情報の表示内容について

茨歯会ホームページ上に給与待遇などを載せることについて承認した。

(15) 無料職業紹介所と専門学校の求人の一元化について（継続審議）

標記について、継続して審議することとした。

会務日誌

- 3月16日 保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。
対象医療機関数 2
- 3月16日 未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を牛久市「どい歯科医院」にて開催。シャープニング、キュレッタージ、超音波スケーラーの実習と質疑応答を行った。
受講者 3名
- 3月16日 第11回広報委員会を開催。会報3月号の校正、会報4月号の編集、次年度の会報ファイルの色選定について協議を行った。
出席者 小林広報委員長ほか3名
- 3月16日 第12回理事会を開催。入会申込の受理、いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会総会、茨城県市町村職員共済組合歯周病健診、健康フォーラム、平成29年度事業計画（案）、平成29年度予算（案）、平成29年度設備投資の見込み、会員功労賞、永年勤続従業員、永年勤続職員、歯科業者との災害時協力活動に係る協定書等の検討会、口腔センター土浦新築工事指名競争入札の実施、平成29年度学術シンポジウム予備委員・講師謝礼、無料職業紹介所の求人情報の表示内容、無料職業紹介所と専門学校の求人の一元化について協議した。
出席者 森永会長ほか16名
- 3月22日 日学歯第91回総会が日歯会館にて開催され、公益社団法人に向けてについて協議が行われた。なお、席上、大槻茂男氏（鹿嶋市）ほか14名が日学歯会長表彰を受けられた。
出席者 森永日学歯代表会員ほか1名
- 3月23日 専門学校にて第4回体験入学を実施。歯科衛生士科17名、歯科技工士科3名の参加者に対して学校施設説明などを行った。
- 3月23日 厚生局茨城事務所・県国民健康室との平成29年度指導関係について打合せを行い、平成29年度指導計画及び平成28年度指導結果について協議した。
出席者 須藤厚生局茨城事務所長ほか5名 森永会長ほか6名
- 3月23日 社保委員と審査委員の合同連絡協議会を開催。保険請求に関して提出された6の協議題について協議・意見交換を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか20名、新井田審査委員ほか19名
- 3月23日 茨歯会・茨歯連盟連絡協議会を開催し、今後の定期的な協議会の開催について協議した。
出席者 森永会長ほか2名 高野連盟会長ほか3名
- 3月26日 日学歯「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修会・茨歯会学校歯科医研修会を開催。学校歯科保健に関する概念の後、学校歯科保健における保健教育、保健管理、組織活動、学校歯科保健の実践例について研修を行った。
受講者 33名

- 3月27日 第1回茨城県国民健康保険制度移行準備委員会が県庁舎にて開催され、茨城県国民健康保険制度移行準備委員会の進め方、ほかについて協議が行われた。
出席者 森永会長
- 3月28日 茨城県社会福祉審議会が県庁舎にて開催され、保健福祉部の主要事業等について審議が行われた。
出席者 村居常務
- 3月28日 県防災会議が県庁舎にて開催される。
県地域防災計画の改定について協議が行われ、その後の茨城県国民保護協議会では、国民保護計画の改定について協議が行われた。
出席者 森永会長
- 3月30日 未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を開催。キュレッタージ、PMTCの実習と質疑応答を行った。
受講者 7名
- 4月 7日 茨城歯科専門学校平成29年度入学式を挙行。歯科衛生士科45名、歯科技工士科12名の入学を許可した。
- 4月12日 第1回社保正副委員長会議を開催。第1回委員会、指導、疑義、Q&A、理事会、審査内容について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか2名
- 4月12日 第1回社会保険委員会を開催。委員会の活動方針、疑義、合同協議会結果、指導立会いの割振りについて協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか19名
- 4月13日 第1回地域保健委員会を開催。今年度の事業計画について協議を行った。
出席者 渡辺地域保健部長ほか10名
- 4月13日 歯科特殊健康診断認定歯科医師講習会を開催。産業口腔保健統括マネージャーの戒田敏之氏が「歯科医師による健康診断」について講習を行い、その後質疑応答を行った。
受講者 73名
- 4月14日 内外情勢調査会4月例会が水戸京成ホテルにて開催された。
出席者 森永会長
- 4月16日 CAD/CAM実習研修会を開催。(株)松風のインストラクターを招いて、ハイブリットレジン冠の製作の講習が行われた。
受講者 13名
- 4月17日 地域医療介護基金に関わる平成29年計画事業のヒアリングが厚生労働省内会議室で行われ、本会からは口腔センター土浦の移転整備費に伴う経費の支援について要望した。
出席者 征矢専務ほか1名
- 4月18日 労働保険年度更新説明会がホテルテラスザガーデン水戸にて開催された。
出席者 須能

医療+管理委員会 だより

平成28年度 第3回歯科衛生士復職支援講習会

医療管理委員会 鈴木 慶洋

平成29年3月30日（木）、茨城県歯科医師会館において本年度第3回歯科衛生士復職支援講習会が開催されました。

歯科医院にとって歯科衛生士は慢性的に不足しているところが多く、また各地区によってもその深刻さに違いがあると考えています。

これまで水戸を中心に本講習会を行ってまいりましたが、現在、各地区でも同講習会を年一回程度開催するようになりました。

徐々にではありますがそれぞれの地区においても同講習会に歯科衛生士が受講生として参加するようになってきております。

さて今回の講習会には水戸・ひたちなかなどから7名の受講生が参加しました。

はじめに森永会長から、「歯科衛生士の活躍の場は歯科医院のみならず訪問歯科診療や福祉施設等に広がっているにもかかわらず衛生士の数が不足しており彼女たちの復職が大切である。」という話がありました。



また大字部長からは、今の歯科医院はフルタイムでの衛生士募集だけではなく午前中のみ、あるいは週に数日のみのパート勤務で募集している歯科医院も増えてきており、歯科医師会としてもその環境作りを行っていると話されました。



今回の講師は衛生士科より西連寺先生、川井先生、山下先生で、講義内容はキュレタージュ、PMTTCで、その後2人1組で相互実習を行いました。

受講生が7名と奇数だったため、私は受講生の1人の実習相手となりました。

実習の全体的な雰囲気は見ることはできませんでしたが、担当の実習生は真剣に取り組んでおり技術的にもまったく問題ありません。

技術的にはそれほど問題なくても長いブランクとそれに伴う新しい技術や言葉のために復職を諦める、あるいは躊躇する衛生士がいるのだらうと感じました。

復職する衛生士を迎え入れる歯科医院側にもこれらに配慮する必要があるのかもしれませんが。

最後に受講生と率直な意見を交換するティータ

イムと就職相談の時間が設けられましたが、今回は就職相談をする受講生はおらずティータイムのみとなりました。

受講生からは結婚や出産を機に職場を離れ5年くらい、中には20年以上ブランクがある衛生士もいました。

その中でPMTCという言葉も最近まで知らなかったという意見もあり、そのようなことが復職の障壁の一因となっていると感じています。

今年度は7月19日（水）、11月29日（水）、3月29日（木）が茨城県歯科医師会館で、また鹿行地区でも9月27日（水）神栖市新扇歯科医院で開催の予定です。

他にも土浦、つくば、西南でも順次開催予定です。

歯科衛生士復職支援講習会アンケート結果

H29.3.30（受講者7名）

Q1 この講習会の事を何で知りましたか？

- | | |
|--------------|---|
| A1. 歯科医院の広告 | 3 |
| A2. ホームページ | 3 |
| A3. 友人・知人の紹介 | 0 |
| A4. 真珠会お知らせ | 0 |
| A5. 衛生士会お知らせ | 0 |
| A6. 茨城新聞 | 0 |
| A7. NHKデータ放送 | 0 |
| A8. その他 | 2 |

Q2 講義の内容はどうか？

- | | |
|-----------|---|
| A1. 丁度よい | 5 |
| A2. 物足りない | 1 |

Q3 実習内容はどうか？

- | | |
|-----------|---|
| A1. 丁度よい | 6 |
| A2. 物足りない | 0 |

Q4 復職にあたって気になることは？（複数回答可）

- | | |
|-------------|---|
| A1. 給与・待遇 | 4 |
| A2. 勤務時間 | 4 |
| A3. 職場の人間関係 | 3 |
| A4. その他 | 2 |

Q5 御友達に復職を考えている衛生士さんはいますか？

- | | |
|---------|---|
| A1. いる | 2 |
| A2. いない | 5 |

Q6 復職の時期は

- | | |
|----------------|---|
| A1. 3か月以内 | 4 |
| A2. 1年以内 | 0 |
| A3. 1年以上 | 0 |
| A4. 条件が合えばいつでも | 1 |





第25回茨城県歯科医学会 障害児・者歯科講演会報告

(公社)茨城県歯科医師会 口腔センター水戸

関口 浩、村居 幸夫、征矢 亘、森永 和男

はじめに

平成29年3月12日(日)の第25回茨城県歯科医学会におきまして、(公社)茨城県歯科医師会主催の障害児・者歯科講演会が開催されました。今回は「重症児の栄養と地域連携～小児の栄養の現状と課題：在宅医の立場から～」と題して、戸谷剛先生(子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田院長/小児科医)にご講演いただきました。本講演会には歯科関係者以外に障害者に携わる多職種の方、家族など59名の参加者の皆様にご来場いただき、熱心に拝聴されていました。講演終了後には参加者と活発な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。本講演会について、アンケート結果をもとにご報告します。

講演内容の要旨

在宅移行する(超)重症児・重症心身障害児(以下重症児)と家族は、児の治癒しない疾病や障害の発症を通してさまざまな喪失を体験する。在宅は生活の視点から喪失した児と家族の健康観(Well-Being)を体験的に育むことが大切な視点となる。また、重症児の介護は高い医療介護度と労力を時に要求され、しばしば医療社会福祉の面で孤立しやすいため、早期の在宅資源の介入と支援が重要となる。

在宅での重症児の栄養管理はしばしば生命の維



講師 戸谷 剛先生

持に視点を置いた管理で帰宅する。そのため在宅では生活と発育に視点を置いた「こころとからだ」を育む「ごはん」の視点に立った栄養調整への段階的な移行を行う。

1) 単剤の経管栄養療法で退院する児にしばしばみられる微量元素・ビタミン欠乏に対して留意する。栄養状態が一見維持されているように見えながら低代謝が介在し余力が少ないと思われる症例・脆弱な消化機能が介在する症例では後述の消化機能を向上させる取り組みを介して段階的に栄養調整を行う。

2) 生活に配慮した栄養管理：児と家族の生活のリズムにマッチした注入方法や内容への段階的な移行に配慮する。また睡眠は児にとっても精神や各臓器の疲労を緩和し消化機能を高め発育を支え

る上で鍵となり、消化管を適度に休める視点を持つ。

3) 消化機能を育む：消化吸収を支える腸内フローラを育むためのミキサー食やプロバイオティクスの摂取をこころがけ、段階的にミキサー食主体への移行を行う。この際、長期の単剤経管栄養剤管理の児にしばしば食物アレルギーを有する児を経験するため開始前のアレルギー検査を行うことが望ましい。脆弱な消化機能や消化管蠕動不全（機能的胃腸障害）に配慮したゆっくりとしたミキサー食の導入に配慮する。またミキサー食は時に家族にとって負担感が強いこともあり、介護に過度の負担となりすぎない段階的な導入を心がける。

4) 摂食：摂食は単なる栄養補給ではなく食べることで育まれる愛着をはじめとした情緒発達や希求を起点とした社会発達の起点となる。また摂食も味覚も就学前まで基礎的な発育が完成する印象があり、早期の摂食の取り組みが重要で、摂食が困難な児もNon Nutritional Feedingとしての味覚や口腔機能を育むという視点を持つ。摂食は食物形態や食事方法・体位のポジショニングやリラクゼーションなどリハビリ的な観点が大切で、口腔リハビリやSTによる早期介入を検討する。

5) 早期の通園と摂食の重要性：摂食が重要になる就学前はジェンダーの発育の重要な時期という視点を持つ。「お子さんのためのコミュニティー」として重症児の発育に理解のある保育園・児童発達支援センター・療育施設・特別支援学校のプレスクールは、摂食を含めた情緒・ジェンダーの発育支援としても重要である。

6) 終末期の栄養：終末期は急速なADLの低下と苦痛症状を伴う機能障害に配慮する。児と家族が「いのちの尊厳（かがやき）を見つめる」プロセスとしても、栄養はお子さんご家族の大切な絆の確認のきっかけとなり「生きる絆としての食べること～ごはん」に配慮を行う。

アンケート集計結果

受講された方々には所定のアンケート用紙に無記名で記載をお願いし、会終了後に回収しました。アンケートを集計し、その結果をまとめたので報告します。

1) 受講者数とアンケート回収率

受講者数は59名であり、アンケート提出者数は28名で回収率は47.5%でした。

2) 性別・年齢

性別は女性25名（92.6%）、男性2名（7.4%）でした。年齢は20歳代が8名（28.6%）と最も多く、次いで、40歳代と60歳代がそれぞれ7名（25.0%）、50歳代4名（14.3%）、30歳代2名（7.1%）の順でした。

3) 職種

受講者の職種の一覧を表1に示します。

歯科衛生士と歯科医師を合わせると16名（57.2%）であり、学生も出席していました。

表1 受講者の職種

職 種	名 (%)
歯科衛生士	12 (42.9)
学生	5 (17.8)
歯科医師	4 (14.3)
看護師	3 (10.7)
管理栄養士	2 (7.1)
施設職員	1 (3.6)
保護者家族	1 (3.6)
計	28 (100)

4) 受講者の評価

講演内容に対する受講者の評価を表2に示します。

「非常に良かった」が37名（77.1%）で、8割近くを占めていました。

表2 受講者による評価

評価	名 (%)
非常に良かった	16 (59.3)
良かった	11 (40.7)
あまり良くなかった	0
計	27 (100)



講演会風景

受講者の感想・意見

講演内容に関する受講者の感想・意見は以下のとおりでした（一部記載）。

- ・栄養の範囲が広がったので、もう少しせまいポイントで、症例を交えての在宅での栄養管理の具体的な進め方などの講話が聴きたいと思いました。
- ・摂食は就学前、早期であるほうが良いとの話。心の成長と共に食べる楽しみが味を学習していくというのを改めて教えてもらいました。施設に來ているこどもたちへのアプローチを見直し考えていきたいと思ひます。
- ・摂食時の姿勢について参考になりました。栄養面の重要性も再認識し勉強できて本当に良かったです。
- ・いろいろな障害を持つ患者さんと接しながら、口腔内、主に歯のことだけにとらわれがちになる。口は食べる機能を持つものということを再認識させられた。何を食べられるか、何を食べてい

るかを歯科は基本に考えて、歯を見ていくことが必要だと思う。

- ・在宅というと高齢者のイメージが多かったが、小児も同じようにいることが分かった。普通の歯科医院で働いていると在宅ケアの方々と関わりもなくどういふものかわからなかったが、そういった方が必ずこの世の中に存在すること、そして、それを支える家族がいること、医療従事者もいることを忘れてはいけないと感じた。
- ・今まで栄養面で観点を置いて見ていなかったもので、とても勉強になりました。

今回の講習会が受講者にとって医療、支援の現場における種々な問題・疑問の解決に役立つ内容でありましたら幸いです。今後も受講者の方々の要望を考慮して実りある講演会を企画していきたいと考えています。

お腹の中から歩き出すまで 石田房枝先生

(社)茨城県南歯科医師会 坂寄 恵

まずは、石田先生の素晴らしいご講演ありがとうございました。

女医会の歴史の中でも立ち見も出るほどの講演会は初めてのことでした。

「歯科の仕事は歯が生えていて初めて成り立つもの、歯のない赤ちゃんには関係ないだろう」そんな気持ちが目から鱗が落ちるとい言葉のように払拭される講演でした。

糖分の摂取量に始まり、口の基本的機能、感覚運動系の発育、嚥下、咀嚼、発声、呼吸等々のお話がありました。口は大きな役割を担っているが口だけを良くすることはできません。歯科医療は歯や口腔を通じて、人そのものの健康に寄与する医療といえます。

子供たちの成長は階段を上るように一段一段をきちんと出来るようになって次の段階へと導かなければならないはずですが、ついつい「這えば立て、立てば歩めの親心」ではありませんが早く早くと急いでしまいます。

羊水の中で無重力状態の十月十日、そしてこの世に生まれ落ちてからは、地球の重力と戦い身体の機能をつかみ取っていく過程の一つ一つがとても大切なこと。母として子育てしてきた時には思



ってもみななかったことが石田先生のお話の中でストーンと腑に落ちて、もっと早く知っていたら実践したのにとおもいます。そして改めて孫の時には実践しなくてはと後悔してしまいました。娘や嫁からはエーッといわれるかもしれませんが、必要な知識が盛りだくさんのお話でした。

子育ては一度限り、やり直しのきかない一大事業です。

子育て中の方、これから子育てを考えている方、たくさんの方々に聞いていただきたいと思いました。



明海大学歯学部同窓会茨城県支部 会員大会

「繋ぐ～新たな意志で、未来に向けて～」

厚生理事 市川 一夫



平成29年3月4日、つくば市ホテルグランド東雲に於いて会員大会を開催。今回特別に明海大学宮田淳理事長をお招きし、県人会顧問の真野樹子先生、歯周病科客員講師 小林之直先生にもご臨席賜り、また会員78名中50余名もの先生方にお集まりいただき盛大に開催されました。この大会は吉田勝幸支部長が就任当初より、「同窓なのに会合で会っても顔が判らず挨拶も交わせないのは寂しい事で何とかしたい！どげんかせんといかん」という熱い思いで開催を念願されていた事業であります。

当日は、社保審査委員 木下克己先生と小原俊彦先生の身にしみる講演会と、松隈則子先生司会進



保講

行による懇親会の二部構成で行いました。新入会員の木戸正人先生、菊池正浩先生、能木場公彦先生、大木理恵子先生にもご参加いただき、終盤には学歌「よき友」を斉唱し、ひとときの会は閉会いたしました。



祝宴



学歌斉唱

翌日には、午前様の二日酔いのなかゴルフコンペを強行し、理事長の華麗なスイングと、おまけにSoftBank王会長の世界一のスイング（右打！）を間近で拝見でき光栄でした。優勝は会計理事 太田一三先生、ベストグロスは79 名誉顧問 広瀬洋二先生おめでとうございます。

我が母校は2020年、東京オリンピックの年に創立50周年を迎えます。

同窓会の真の目的（会則第1章）「会員相互の親睦をはかり、同窓会の発展に寄与し、あわせて歯学向上につとめること」。同窓会の発展と母校の繁栄は車の両輪。この大会によって会員が一堂に会し直接言葉を交わすことで、繋がりを大切にしながらより一層の親睦を深め、同窓会の存在意義を再確認し、誰もが危機感を抱いている歯科界で不安や心配ごとなどを共有して行きましょう。

我々は明海大学で勉学をし、歯科医師として社会において少なからず、それぞれの立場で貢献することができ、そのことを過去から現在、先輩から後輩へ、延いては未来へ繋がっていくことを切望いたします。

ご多用のなか意をお酌みいただき、同窓ファーストでご参集いただきました多くの先生方に深謝致しまして会員大会の報告といたします。



コンペ



【歯科技工士国家試験】

平成29年2月19日（日）歯科技工士国家試験が日本歯科大学生命学部において実施されました。

2年生10名は前日に試験会場近隣のホテルに宿泊し、やや緊張した様子ではありましたが、落ち着いて試験当日を迎える事ができました。

試験は午前が実地試験、午後が学説試験の日程で行われました。

そして3月28日（火）14時に合格発表があり、無事に10名全員が合格することができました。

卒業生たちが、この2年間で学んだ歯科技工の基本と初心を忘れずに、臨床の場で技工士としての技術を磨き、長く活躍し続けることを願っています。

（文責 川崎）

【歯科衛生士国家試験】

平成29年3月5日（日）、快晴に恵まれ明海大学浦安キャンパスにて第26回歯科衛生士国家試験が行われました。茨城歯科専門学校歯科衛生士科3年生48名、この日の為に3年間の日々を費やしてきました。当日朝の学生の緊張した表情は今でも忘れられません。

前日の正午にバスで水戸を出発、途中休憩をとりながら試験会場下見の為、大学に向かいました。バスの中では、早くも緊張している学生、いつもと変わらぬ学生とそれぞれです。明海大学浦安キ

ャンパスに到着し、運転手の方がゆっくりとキャンパスの周囲を回って下さりました。明日の試験会場である大学校舎を眼にして、今までにぎやかだったバスの中の雰囲気が一変し、緊張した空気に包まれました。旅程が順調で、宿泊先のホテルには大分早くに到着しましたが、スムーズにチェックインできました。その後は各自、自由時間となり明日の試験に備え静かな時間を過ごしました。

翌日、試験当日の朝は、短い時間で朝食をとり、身支度を終えて7時15分にはホテルを出発、試験会場へと向かいました。

会場に着くと、大学校舎前は既に多くの受験生であふれていました。冷たい外気も手伝って、学生は冷たさと緊張で青ざめた表情でしたが、1年生の時からお世話になっている東京歯科大の橋本先生が駆けつけて下さり、一気に元気を取り戻しました。先生は一人一人と握手しながら穏やかに言葉をかけて下さりました。先生と別れて大学校舎前に移動し待つこと数分、開場となり学生は自分の受験番号と教室を確認しながら校舎の中に入っていました。長いと感じた3年間も今日というこの日を迎えた今は、あっという間の時間であったと学生の後姿を見送りながら思いました。

午後4時、試験終了。帰りのバスの中は静かな時間が流れていましたが、水戸に近くなる頃にはいつもと同じ学生に戻り賑やかな車中となりました。

春からそれぞれ自分の道に進み、悲喜交々いろんな経験をしながら自分が納得いく選択を重ねて進んでほしいと思いました。

（文責 根目沢）

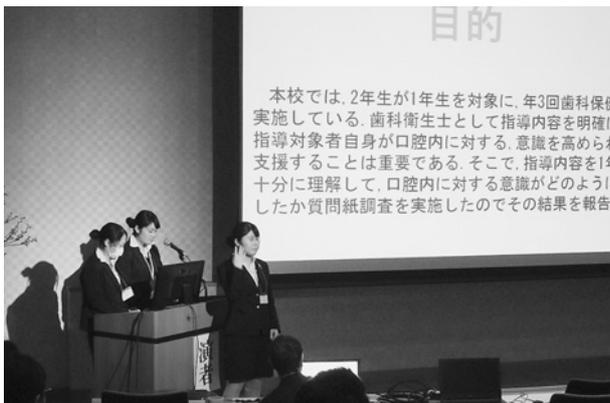
【第25回茨城県歯科医学会参加】

— 歯科衛生士科 —

3月12日（日）水戸プラザホテルにて第25回茨城県歯科医学会が開催され1・2年生、計102名が参加いたしました。2年生は一般口演で下記について発表しました。

- ・「登校時間から見る生活のリズム」
- ・「飲み物から見えてきたこと」
- ・「新入生歯科保健指導から学んだこと」
- ・「高齢者実習を経験して」
- ・「臨床実習を通じて」
- ・「家族との交流から考えられること」

今回の発表の一部に手話を取り入れ、1年時に学んだことを活かし、緊張しながらも堂々と発表していました。



また昨年に引き続き「弁当プロジェクト4」として、今回は『市販化に向けての取り組み』をテーマに、『五感を楽しむ！噛むかむ!!歯科専弁当』を作成しました。



多職種の方々の協力のもと、実際に食器具に触れたり、またメガネによる視覚障害の疑似体験を通じて、弁当の組み立て方を考えました。

歯科医学会を通して、学生は歯科衛生士としての役割、多職種との関わり方など、多岐にわたり学ぶことが出来たのではないかと思います。

（文責 山下）

【東京歯科大学見学実習（衛生士科2学年・技工士科1学年）】

3月23日（木）東京歯科大学にて、解剖学教室・病院・手術室・標本室を両科合同で見学させていただきました。



解剖学教室では、授業で学んだ口腔内の構造や人体について実際に触れることにより、教科書では理解できなかったことなどを再確認することができたようでした。病院見学では、総合歯科や専門分野毎の診療、充実した設備など見ることができ、また、クラス代表6名は手術室に入り実際の手術を近くで見たりモニター越しで見せて頂きました。

標本室では、日本でも数少ない貴重な標本を見学することができました。今回学んだことは一生の宝であること。また、このような機会を与えて頂いた多くの方々へ感謝の気持ちを忘れずに、臨床・臨地実習に生かして取り組んでほしいと願います。

ます。

小鹿校長先生はじめ綱川教頭先生には、お忙しい中、朝から引率していただき学生を激励してくださりありがとうございます。

(文責 菱沼)

【28年度卒業式挙行】 喜びと期待を胸に

3月8日(水)午前10時から茨城県歯科医師会館講堂で、卒業生を含む関係者約280名を集めて茨城歯科専門学校卒業式が挙行されました。

本年度は歯科衛生士科47名、歯科技工士科10名が式に臨みました。

式は、綱川健一教頭の司会により進められ、国歌斉唱、校歌斉唱に続き、征矢亘教務部長(歯科衛生士科)、野口知彦教務副部長(歯科技工士科)が卒業生の氏名点呼を行い、小鹿典雄学校長から一人ひとりに卒業証書、記念品が授与されました。



卒業証書、記念品の授与

次いで成績優秀者・無欠席者・特待生の表彰が行われました。

◇成績優秀者

(歯科衛生士科)

宮田里紗さん、寺門なつきさん、白戸美香さん

(歯科技工士科)

嶋崎伊吹さん、高科郁哉さん

◇皆勤賞

(歯科衛生士科)

白戸美香さん 他10名

(歯科技工士科)

嶋崎伊吹さん他2名

◇特待生褒賞

(歯科衛生士科)

宮田里紗さん、寺門なつきさん、白戸美香さん

(歯科技工士科)

嶋崎伊吹さん、高科郁哉さん

◇特別表彰(いばらき専門カレッジリーグ賞)

(歯科衛生士科)

寺門なつきさん

(歯科技工士科)

正田真唯さん

以上の表彰者に表彰状と記念品が授与されました。

引き続き、日本歯科衛生士会長表彰ならびに日本歯科技工士会長表彰があり、県歯科衛生士会会長ならびに県歯科技工士会会長からそれぞれ松橋風咲さん、嶋崎伊吹さんに表彰状と記念品が贈られました。

式辞で小鹿学校長は「これから皆さんには歯科医療のプロとしての仕事が求められます。仕事を覚え、技術に磨きをかけるために更なる研鑽を積んでください。そして今日の感激を忘れず、真摯な心で、常に正しく、強く、高く邁進することを期待します。」と、はなむけの言葉を送られました。

続いて森永和男県歯科医師会会長、西野雅之県歯科技工士会会長、芹澤鏡子県歯科衛生士会会長の祝辞を受けました。

また、小河原智美歯科衛生士科同窓会真珠会会長(代理：星光恵歯科衛生士科同窓会真珠会監事)、瀧川三雄歯科技工士科同窓会みわ会会長らの来賓紹介が行われました。

その後、在校生の柴田ひかりさんの「人々に愛される歯科衛生士、歯科技工士になって私たちの模範でいて下さい。」と心のこもった送辞を受けて



送辞を述べる柴田ひかりさん



答辞を述べる嶋崎伊吹さん

嶋崎伊吹さんが卒業生を代表して感謝の言葉とともに「立派な歯科衛生士、技工士になることを誓います。」と答辞を述べました。

卒業生代表の石崎智美さんからの記念品贈呈で

式は終了し、記念撮影の後、卒業生や関係者は謝恩会会場「フェリヴェールサンシャイン」に向かいました。

(文責 小田倉)

原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会



日立歯科医師会創立90周年記念市民公開講座 「在宅医療」知っていますか？

家で最後まで療養したい人に
このまちで、いつまでも豊かに生きる
～病気になっても、地域で支えるまちづくり～

(社)日立歯科医師会 地域連携特別委員会 関 隆

平成29年2月25日（土）多賀市民会館において、日立歯科医師会主催、勇美記念財団の助成により市民公開講座が開催されました。その概要を報告いたします。

講演に先立ち、日立歯科医師会会長間宮高弘は「医療と介護の連携の重要性や問題点の共有を図り、職種を超え地域という枠組みの中で在宅医療をとらえ、いつまでも豊かに暮らすまちづくりを皆さまと共に考えていきたいと思います。」と挨拶を述べた。



市民公開講座は、日立市地域包括センター長大森敏子氏より「日立市の在宅医療と介護連携の取り組みについて」の話題提供から始まった。その中で、来る2025年、日立市の超高齢社会における医療介護にかかわる予測数値を示し、看取りま

で視野に入れた地域の仕組み作りはどうあるべきか講演された。

◆日立市の状況		2025年には
総人口	184,574人	170,863人
高齢者数	55,375人	56,389人
(高齢化率)	(30.0%)	(33.1%)
※75歳以上	27,587人	34,894人
要介護認定者数	7,854人	12,074人
ひとり暮らし高齢者数		2,598人
65歳以上高齢者に占める認知症高齢者	約8,700人	※2025年には、10,000人超

在宅医療と介護連携が必要な背景

本格的な超高齢社会の到来
病院や施設だけの受け入れだけでは困難
「自宅で最期を迎えたい」と望む人も多数

本人・家族・地域・医療・介護の専門職の力が
必要！

超高齢社会に応じた社会の仕組みづくりを！

基調講演は、茨城大学長谷川幸介先生がご登壇され、「在宅医療を支える多様な人間のつながり」

という演題で講演されました。板書でのユーモアあふれる長谷川先生ならではのお話しは、会場を終始和やかな雰囲気包んでいました。医療介護の枠を超え、豊かなまちづくりのためには何が求められているのか、いま一度立ち止まって考えなければならぬ貴重なお話しでした。以下、その講演内容の要約です。



私たちはいつか切れて落ちるロープの上を歩いている。網を整備しなければならない。独居のお年寄りが死を迎えるとき、自分の人生を全うする網が出来ていない不安に襲われる。在宅医療では自分の家で死を迎えるが、市町村によっては網が張られていない。ほころびを繕わなければならない。

日立市の中で、自分らしさを表現できて死を迎えることができるか。一つの網は一人一人のつながりでできていて、それを四つの縁と呼んでいる。一つは血縁である。在宅医療、地域包括ケアセンターは最大の網となる。今までは3、4世代で暮らしてきた。しかし今、二人暮らしが一人暮らしになり大きく変わってきた。そして地域のネットに入らない人が増えてきている。しかし一人暮らしを一人ぼっちにしない、友達関係、周りに友達がいるようにコミュニティーの網を張る。全体の風呂敷のような網、日立市民をどのように支えていくか、1人暮らしにも対応する網を張る総合計画を作らなければならない。

人は一人では死ねない動物。自分の人生を生きてきたんだと実感し、自分の人生はこうだったと誰かに伝え思い出しながら死にたい。どうやって自分の人生を全うして死ぬるか、その仕組みを作る。一人では決して生きてはいけない。そのために血縁、地縁、市民団体、専門職、縁を作って、つながりを作って、多様な人間社会の中で生きてきたという事を理解できる支援社会が重要になってくる。この中で要になるのが、地域包括支援センターになると思う。日立市では地縁が出来ていない。全部がつながって網の形を作り、多様な人間関係で在宅医療をできる仕組みを作る。

在宅医療では、網の中に医者がいる。病院完結型治療では、治る前に地域の中に出ていく。そして地域が病院になり、病院、施設、福祉の機能をあわせ持つ。日本で出来るのは3割位だろうが日立市では支援が出来上がっているのが出来る。核家族で幸せになれるネットを作らなければならない。お医者さん、医療従事者とサークルを作って学ぶ会を作る。看取るとはどういう事か思いを共有する。またコミュニティーソーシャルワーカーが専門職の気持ちを整理し、患者さんの気持ちを整理して対応することを期待する。

健康には、三つある。一つは体の健康、二番目は心の健康、三番目は縁の健康。人はつながってこそ健康。どういうつながり方でもいいけど、人はつながって生きることを選んだ。網はつながっている。日立市の持っている資源、みんなの思い、いろんな武器を使ってこの網をきれいに作ってみよう。

長谷川先生は、四つの網を張ることによって、全体を覆いつくし、地域社会で支えていこうと連携の大切さを強調しておられました。時間の経過の中で四つの網が、平面的あるいは立体的にどれだけクロスオーバーできるか、私共に課せられた問題点であると思われました。

休憩の時間をはさんで、日立市健康づくり推進課佐藤由紀子氏による、健口体操が行われ、会場にくつろぎが戻ったひと時でした。



会場に来られたシルバーリハビリ体操指導士会の方から「大変参考になりました。これからも健康第一に、お口の筋肉の使い方を、広めていきたいと思います。」との声がありました。

◆シンポジウム 「在宅医療を考える」

【シンポジスト】

茨城大学	長谷川幸介先生
多賀総合病院 医師	伊藤 均先生
結城市開業 歯科医師	三木 次郎先生
横浜市 歯科衛生士	佐藤由紀子氏
日立市地域包括支援センター長	大森 敏子氏

【座長】

日立歯科医師会 地域連携特別委員会 委員長	黒澤 俊夫
-----------------------	-------

はじめに、「在宅医療を知っていますか？家で最期まで療養したい人のために・・・」の演題で多賀病院伊藤均先生の講演がありました。熱意あるチームで取り組まれている数々の在宅医療の現場をスクリーンに映し出されました。その中から一例をご紹介します。

・Aさん 67歳 男性 前立腺がん

出身は宮城県で姉が一人いる。市の高齢福祉課が相談にのる。3年前に前立腺がんと診断され日立病院に通院する。多賀病院に依頼される。独居であり、自宅は、山の奥の一軒家。介護士、ケアマネージャーと連携して、自宅の生活の支援をする。ヘルパーさんを希望され、状態が悪くなるとデイサービス介護を受ける。身寄りがないため高齢福祉課と連携する。亡くなった時、どうしたらよいか話をする。前立腺がんの痛みは、薬剤師、看護師と連携する。3カ月後、自立した生活は困難になり、ヘルパーさんが入る。5年後、一人での生活が不可能となり、介護施設に入る事が出来たが、入所6カ月後、施設の人に見守られ亡くなる。



伊藤医師は、全ての患者が自宅療養に適しているわけではない。我々のできる事は、家族や患者さんに対して自宅で療養する、あるいは亡くなることを想定して、それに関わっていくことのノウハウを教えることは出来る。しかし、命を長らえる事は難しい。全ての患者さんに我々が対応するかと言えばそうではない。ただ、我々は家や希望

する患者さんに対応していきたいと思っています。最後のスライドには、在宅療養チームのメンバー全員が映し出され、チーム医療の大切さを説かれていた。

続いて、「在宅医療における歯科医療」について、結城市開業の歯科医師、三木次郎先生の講演を拝聴した。地域包括ケアシステムの理解を深めていただくこと、その意義を丁寧に説明された。そして訪問歯科診療への姿勢の一端を述べられた。

「人生最大の楽しみである食べるという事を通して栄養を改善して体力を回復させ、体力の面だけでなく、精神的にも自立した生活を目指すように支援する。最後まで口から食べる事を保てるように関わっていききたい。在宅医療とは、治し、支える医療である。」訪問診療について確固たる信念を貫いている三木先生の姿勢に敬服いたします。取り組まれてきた一例をご紹介します。



・78歳 男性 肺がんの終末期

主訴、入れ歯が合わないので食べられない。家族がどうしても最後まで食べさせてあげたい。在宅医から紹介される。義歯が不適合のため義歯を調整する。その日のうちに食べられるようになる。喜んでいただける。最後に行った時も、入れ歯を入れていて、大丈夫だということでした。次の日の朝、家族から亡くなったとの連絡が入る。最後まで、自分の口で食べられた事に感謝される。お薬書を頂く。私は、神ではありません。ひょっと

したら、在宅医療そのものだったのかもしれませんが。我々、チームの人たちが、その神の手助けをただけだったと今は思っています。

次に「在宅介護の場において歯科衛生士の関わり」のタイトルで、在宅医療の先進地の横浜市からお出で頂いた佐藤由紀子氏にご登壇された。「日本で老いて死ぬ」共著（朝日新聞出版）の中で、佐藤氏が関わった患者さんの症例をもとに話を進められました。



・Oさん 76歳 男性 多発性脳梗塞

多発性脳梗塞で2度入院する。後遺症で麻痺が残る。お口から摂取困難であり、胃ろうから栄養を入れる。飲み込みの検査をした高齢者歯科の歯科医から胃ろうをつけているけれども、口から食べても大丈夫とアドバイスを受けた。誤嚥性肺炎の予防について「口腔ケア」の大切さを伝える。部分入れ歯の作製。口唇、頬のマッサージ。口が開けられるようになる。胃ろうの交換、主治医が内視鏡の器材を持って来る。しかし、お口の中にだんだん痰が溜まるようになってきた。スポンジブラシ、くるリーナを口の中の奥まで押し込む。こじあける。1か月位してから、痰の量が手の平いっぱい溜まるようになる。呼吸を楽にするのが大事であるという段階にきた。静かに眠れる夜をつくってあげたい。呼吸を楽にさせてやりたい。来年春までどうかと主治医に告げられる。好きなお酒（ウイスキー）を用意してスポンジブラシを

氷水に湿らせ、香りがひろがるようにする。「おいしい？」傍らで奥さんが見守る。一か月後、奥さんお孫さん、ご家族の皆さんに看取られ天国に旅立った。

周りの人たちの支えで、私も支えられていました。私たちに出来ることは、知識、技術、情報を共有しサポートする。口から食べる大切さ、コミュニケーションの大切さを共有する。家族がほっとするのをお手伝いするのが、私たち歯科衛生士の仕事と思っています。

在宅医療という新たな分野で、それぞれの地域でフロンティアリーダーである3人の先生方の症例報告を拝聴する事ができました。3人の先生方とも、在宅医療への入口は異なっていますが節目で担当者会議をして方針が定まり、穏やかに最期の看取りを見届けているように思われました。在宅医療では、チーム医療は必要不可欠なものであり、その根底には、患者さんを慈しむ心、「命」を尊ぶ心が内在しているように思われました。

◆シンポジウム

・座長（日立歯科医師会黒澤俊夫）



座長「皆さん、お集まりですので、それではシンポジウムを始めさせていただきます。在宅医療で一番必要なのは、チーム医療であると皆さんおっしゃいます。『人はチームで強くなる』という言葉がありますけれども、今日いろいろお話

を伺っているうちに、人は、チームと縁で強くなる。長谷川先生、そうですね。」

長谷川先生「その通りです。チームがこれだけ機能していることを見せてほしい。教えてほしい。」

佐藤先生「横浜で、日立から遠く離れて仕事をしていますが、先程体操をしていただいた方も、私と同姓同名の歯科衛生士さんなので、身近にいる歯科医師、歯科衛生士、かかりつけの歯科医院に相談してみるのが、連携につながっていくと思います。」

座長「本日会場に出席されている方のお話です。豊浦（日立市）で「粋に生きる」というタイトルで長谷川先生の講話があったそうです。この方は、90歳になるご自分のお母さんの介護のために会社を退職して、男手ひとつで介護に携わっていました。外に出る機会がないので、久しぶりに出かけられたという事です。介護疲れがあったのでしょうか。心から癒され笑えたそうです。苦労話が分かりあえ、お互いが聞いて助かる『介護カフェ』などというものがあるといいじゃないですかとのご要望がありました。いかがでしょうか。」

長谷川先生「私は、よく養生という言葉を使います。生命を養うと言って、江戸時代は、医療は養生の中に入っていたと思います。今日発表された方は、皆養生の人達だと思いました。命をどういう風に慈しみながら、自分の一生を過ごせるかということが医療の現場でおこなわれている。本日、チームの方に見せられて驚きました。私にとっては、養生の思想なのです。自分らしく生きられる事を付き添ってくれると思いました。」

伊藤先生「亡くなる事は、悲しい事です。亡くなった時に自分で驚いたのですが、『先生、握手してください』と言われて、本当にこの方は、やり切った良かったのだろうなと思いました。こういった方、チームの中に一緒にやりたいとい

う人もいますので広がりを持たばいいと思いました。』

座長「先程癒し所というか、『介護カフェ』という
ようなものが街の中にあればというお話があり
ましたが、大森センターいかがでしょうか。」

大森氏「介護している方は、背負っているもの、
これからの不安感がとても強いという事を感じ
ています。高齢者の家族の方に目を向ける気持
ちを持つよう、職員の質の向上を考えて在宅医
療、介護連携での研修会を取り入れたい。また
地域の中には認知症の方の家族に認知症に対す
る偏見もあって日頃の高齢者の様子を不安がり、
問題行動が出てきて疲弊している時に高齢者
を含めて家族が集える『認知症カフェ』という
ものを日立市では来年度考えていきたいと思
います。介護者に対する支援体制を考えている
ところです。」



座長「是非期待しております。では次に終末期
について触れたいと思います。先ほどの方のお話
です。お母さんがもう長くはないと告げられた
為、自宅か病院かで悩んだそうです。結局は病
院を選択したが、2、3日後に息を引取られた
そうです。介護するには自信がなかったので病
院にした。そういう場合、死に立ち向かう教育、
知識、どういうふうになれば良いか等の『マニ
ュアル』のようなものはないかとおっしゃって
いました。ご意見を伺いたいです。」

長谷川先生「私も全くそうだと思います。江戸時



代では死を確認するのはお医者さんの仕事では
なかった。かつてはお坊さんも地域の人も言え
た。今はお医者さんの仕事になった。死を確か
めるのはどうやって生きてきたのかということ
を確かめることだと思いました。治療をして
もらって自分を取り戻すことが出来た。自分を取
り戻す事と死を向かい入れることがセットにな
っている気がする。地域の人がどういう風に語
りかけたらよいか、マニュアルを作らなければ
駄目だと思います。」

座長「伊藤先生、いかがでしょうか。」

伊藤先生「長谷川先生がおっしゃられたように以
前は自宅で亡くなり、1990年を境にして病院で
亡くなられる方が多くなり、現在95パーセント
の方が亡くなられています。昔はある程度分か
っていたが、今は慣れていないので分からない。
一つの手段としてマニュアルが必要だと思いま
す。それぞれの患者さん、家族によって違うの
で、通り一遍のマニュアルは難しい気がします。」

大森氏「在宅医療合同研修会の時に、これから在
宅医療を迎えるにあたって、突然入院したした
事がきっかけでどんな風に生きて、どんな風に
死を迎えたいかという事を自ら考える機会があ
ってもいいのではないかと課題になった。日立
総合病院ソーシャルワーカーの方が『心積もり
ノート』というものを提案された。元気な時に、
どんな風に死を迎えるかを、考えるテーマとし
て、今後『在宅医療連絡協議会』として検討し

ていきたい。』

座長「ありがとうございます。三木先生、どうでしょうか。」

三木先生「在宅医療を始めて14、5年たつ。それまでは人とムシ菌の関係だった。在宅医療を始めてから人と人との大切さを逆に自分が勉強させてもらっている。在宅医療は転換期だった。上手く行く時もあれば、つらい時もありますけれども、これからも続けていきたいと思っています。」



座長「それでは最後に横浜からご出席の佐藤さん、お願いします。」

佐藤先生「先ほどのアルバムの中のケースですけれども、最後に病院がいいか、このまま家で看取りたいかを含めてケアマネージャー、訪問看護師、お医者さんに考えておくように言われたそうです。奥さんは病室があまりにも殺風景なので在宅で看取りたいですと言った。こうなった時にどこに連絡するのか事前に教えていただいたそうです。周りが教えてくださって安心していましたとおっしゃっていました。」

座長「2025年も目前に迫っています。国は病院から地域へということを盛んに言っておりますけれども、せめて日立市から、病院から地域へとスムーズに展開できるようなまちづくりを是非期待したいと思います。本日は、5人のシンポジストの皆さんに貴重なご意見をいただきました。誠にありがとうございました。」

座長の導きで、患者さんのご家族が、日頃から気にかかっている事を問題提起する事により、患者さんの気持ちをくみ取る先生方のご意見を伺う事が出来ました。また行政の方から『介護カフェ』『心積もりノート』といった今取り組んでいることを紹介していただきました。

基調講演、シンポジウムと続く一連の構成が、「看取り」まで見届ける在宅医療について深く掘り下げて考える機会を持つことができるようになっており、来場者の方のみならず、私共会員にとっても、今回の講座がそれぞれの心に宿し、心のひだに触れることができましたと思います。

最後に、講演をいただいた長谷川先生、シンポジストの先生方、開催に当たりましてご尽力して下さいました日立歯科医師会の先生方並びに関係者の方々に深く感謝申し上げます。

一般社団法人日立歯科医師会 創立90周年記念 市民公開講座

「在宅医療」知っていますか？

家で最期まで療養したい人に

このまちで、いつまでも豊かに生きる
～病気になるでも、地域で支えるまちづくり～

平成29年2月25日(土) 多賀市民会館

本日は市民公開講座にご参加いただき、まことにありがとうございます。
皆さんは訪問歯科診療をご存じでしょうか？
「お口のケアをしてあげたら、夫が明るい表情をみせてくれました。一日一日を穏やかに過ごせたいと思います」「私たちと同じものを、父が最期まで一緒に食べられたことをありがたく思います」
このようなご家族からいただく、こころ豊かにしていただくメッセージは訪問歯科診療の強い味方となります。
本日の市民公開講座が、在宅医療や介護の現状について理解を深め、「地域で支えるまちづくり」について語り合う出会いの場となれば幸いです。

プログラム

13:00	開会	挨拶 日立歯科医師会 会長 間宮 高弘
13:05	話題提供	「日立市の在宅医療と介護連携の取り組みについて」 日立市地域包括支援センター長 大森 敏子氏
13:20	基調講演	「在宅を支える多様な人間のつながり」 茨城大学 長谷川幸介先生
14:10	休憩 (健口体操)	
14:25	シンポジウム	「在宅医療を考える」 (シンポジスト) 茨城大学 長谷川幸介先生 多賀病院 医師 伊藤 均先生 結城市開業 歯科医師 三木 次郎先生 横浜市 歯科衛生士 佐藤由紀子氏 地域包括支援センター長 大森 敏子氏
15:40	閉会	(座長) 日立歯科医師会 黒澤 俊夫

主催：一般社団法人 日立歯科医師会
協成：公益財団法人 在宅医療助成 勇興記念財団
後援：日立市 高崎市 北茨城市 (一社) 茨城県医師会 (公社) 茨城県歯科医師会 (公社) 茨城県薬剤師会
(一社) 茨城県日立市医師会 (一社) 茨城県多賀郡医師会 (一社) 日立薬剤師会 高萩薬剤師会
日立製作所日立総合病院 日立製作所多賀総合病院 日立製作所多賀総合病院 日立製作所多賀総合病院 日立製作所多賀総合病院



〒310-0911 茨城県水戸市見和2-292
 公益社団法人
茨城県歯科衛生士会
 TEL・FAX 029-253-5807
<http://www.ibaraki-dh.net/>
 E-mail jimuj@ibaraki-dh.net

(公社)茨城県歯科衛生士会 県北支部 会田 雅江

今年、私は、58歳になりました。この歳で感じるようになってきたのは今さらながらに、その人の立場になってみないと分からないということ。体験してみないと分からない、それが世間一般と同じかというのと違うということ。自分がこんな感情になるのだとか、こんな考え方をするのだとか、自分に驚かされています。

その中の1つが、ここ2～3年で娘が2人出産しました。結婚の時には何も相手側の家の事では嫁・姑問題など心配がいらなくほっとしていました。それは、普通に嫁に出した人が考え思うことで、私も同じように心配しました。違うなと感じたのが、孫が産まれた時に感じたことは、多分、普通の人には理解できないことです。

それはこの子供達は相手側の孫であって、もちろん私側にとっても孫でも、天秤にかけると、も

う圧倒的に相手側に傾き、それにともない、私の呼び方を名前で呼ばせています。おばあちゃんと呼ばれたくないからとか、そうではなく、なんとなく、壁ができて、かわいくないとかじゃなく説明が難しいです。

今、私は、自分の両親の介護に追われています。この歳になれば、大なり小なり、そんな歳ですよ。それにともなって、毎日思うのが、自分の時間が欲しい、丸1日、毎日自分の時間だった時には分からなかった、このイライラが、何年後かに振り返ってみた時、またそれはそれで、大切な時間を粗末にしていた自分を反省するかもしれません。介護は、する側もされる側も、今いろいろと勉強させられています。未来の自分にとってよき勉強のときですね。

この文章も母の入院病棟で書いています。



癒しの友

(社)茨城西南歯科医師会 小野寺 宣夫

斉藤英雄先生よりバトンを受け継ぎました小野寺です。斉藤先生始め皆様、色々なご趣味を持っていらして羨ましい限りです。

「癒し」と言えば今は流行りの言葉です。癒しは十人十色。私にとっての最高の癒しはペットでしょうか。昔から不精な私は、何事につけ長続きがしませんでした。そんな私がペットと出会ったのが30年程前でした。ある寒い冬の夜、私の所に来られたお客様の車の下に潜り込んで暖を取っていた子犬との出会いが始まりです。雄・雌も分からないまま顔を見て「タロー」と名付けました。(後でメスと分かりました。) そんな調子で飼い始めましたから犬の知識もなく、排便と食事に気を付けていただけでした。8年程して散歩も楽しい日課となったある日、前日まで元気に走り回っていたタローが、突然死んでしまいました。側に居ながら具合が悪いことに気付いてやれなかった悔しさが残りました。その後、犬のいない寂しさからペットショップを訪れ、雌のシェルティと出会いました。お店の中で一番頼りなげな、ひ弱な犬でしたが、そのもの言いたげな目にやられました。これからは目の届く室内で飼う事に決め、名は「さくら」。やがて子犬が生まれ、その名は「ゆり」。3代目は…出産に失敗し断念しました。犬の名前は花シリーズで攻めてみたかったので3代目は「らん」と決めていたのに残念でした。2匹共14年を境にして亡くなりました。母犬は腫瘍、子犬は

脳梗塞でした。この14年間、我が家は犬小屋と化してお犬様々の暮らしでした。犬達も甘えて暮らしている為か、預けたくても1泊ギリギリの外泊しかペットショップには受けて貰えない有様でした。そんな犬達との楽しい共同生活も否応なく終わりを告げ、暫く気抜けの状態が続きました。

ようやく朝のウォーキングを始め出した所、道路の真ん中に蹲っているトラ猫の子猫を見つけました。車に轢かれたかを見ると傷もなく、私を見ても逃げられず衰弱している様子でした。そっと掌に乗せて家に連れて帰ると、妻に「ノミだらけの猫をよく抱いて来た!」と叱られました。私にはノミなど見えませんでした。早速獣医の先生に相談し、ノミ取り薬、続いて猫エイズ・白血病等の予防の為、インターフェロン・抗菌剤を投与して貰いました。口の中は、そこかしこにアフタが出来ており、お腹は腹水が溜まって膨らんでいました。獣医さんには「生きられませんよ」と言われました。2度程インターフェロンと抗菌薬を投与して貰い、2ヶ月が過ぎて体調が落ち着いた時に、先生より「この猫本当に飼うんですか」と聞かれました。もう私はその時にはすっかりこの哀れな子猫に心を奪われていました。名を「MUTE」と付けました。最初の頃、鳴き声も出せなかったからです。今では、体重6キロオーバーで貫禄も出ました。

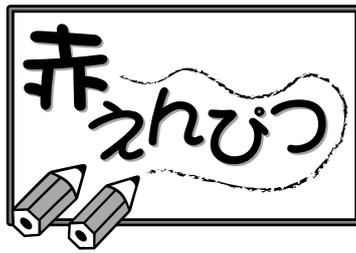
昨年から自分で2階のベランダから侵入して来

た子猫のキジ猫が増えました。名前は「ZUC」。自分から「この家で飼ってくれ〜！」とやってきた凶々しい猫「ズズーシー」最後の3レターを取って名付けました。自分から入り込んだ割には懐かず、逃げ回ってばかりいます。初めて獣医さんの診察を受けた時も、やっとの思いで捕まえ連れて行ったものの、診察室の中を目にも止まらぬスピードで逃げ回り大暴れ。全身麻酔下で診察を受けました。「次回からは、洗濯ネットに入れて連れて来て下さい。」と言われてしまいました。MUTEも前の犬同様外泊出来ず、私から離れられません。そしてZUCは、一年経った今も触らせてもくれません。今、我が家は、ソファー・壁紙と傷だらけの猫小屋です。

でも、私にはこんな暮らしが居心地が良いのです。一日の診察が終わり疲れていても、我が儘で抱かせてもくれない猫達に心を癒されます。何かと世話が焼けたり悪戦苦闘をしていますが、私のストレスを癒してくれるかけがえのない大切な家族です。家内は傷のついたソファーを前に「こんな暮らしは嫌！」なんて言っていますが、可愛い寝姿に唇もほころび、私同様癒されている事は明白です。

今回は、チャレンジ精神が旺盛で、昨年遂にホルルマラソンを完走されました元気一杯の佐藤利三郎先生にお願い致します。





2月18日土曜日、午後1時より横綱稀勢の里関
 祝賀パレードが牛久市で行われた。

当日は、5時間前の8時にはすでに約30人が寒
 風の中、背中を丸め座って待っていた。銀行の駐
 車場には仮設トイレが設けられ、千葉県警の応援
 も加わり滞りなく終了した。人口8万人の市に約
 5万人が押し寄せたとの報道もあった。タイミン
 グよく昼休みと重なったため、自分もパレードを
 観戦した。パレード開始時間が近づくにつれ人が
 増え、横綱通過時には多くの小旗が降られ、歓声
 であふれかえった。運よく動画が撮影でき、稀勢
 の里の話題が出るたびに人に見せる事となった。
 もちろん、話題に出ないときはこちらから強引に
 話題にしたが。皆の期待を背負っての大阪場所で
 の奇跡の逆転優勝については、記憶に新しい事だ
 ろうか。

(hiro)

NHKの連続テレビ小説「ひよっこ」が茨城県北
 西部、奥茨城村を舞台に放送されている。朝ドラ、
 あまり見た事がなかったが、今回は、はまってし
 まった。

東京オリンピックが開催された昭和39（1964）
 年から始まる物語だ。当時の私には毎日が小さな
 祭りのようで刺激的な時代だったように思う。高
 度経済成長期、日本の発展期を背景に、集団就職
 で上京した金の卵が成長していく波瀾万丈の青春
 記。そして谷田部家の家族愛が描かれている。ド

ラマの中に近隣の知っている所が時々出てきて楽
 しませてくれる。また、「ひよっこりひょうたん島」
 「ジェスチャーゲーム」「新幹線開通」などリアル
 タイムで見えてきた事ばかりだ。忘れかけていた記
 憶がよみがえる。当時はやたら子供が多かったよ
 うに思う。エネルギーで訳もなく騒がしい時
 代だった。

昨年末には鹿島アントラーズのFIFAワールドカ
 ュップでレアルと接戦を演じ準優勝の快挙。稀勢の
 里の優勝、19年ぶりの日本人横綱の誕生。そして、
 今回の「ひよっこ」と度々「茨城」が登場し、コ
 ンサバなイメージからニュー茨城へ変化の予感
 が・・・。

(生る)

この4月に長男が進学のため転居（引っ越し）
 しました。我が家にとって初めてのことで、同居し
 ていた家族が一人少なくなったことで、カミさん
 はしばらく「寂しい、寂しい」と言っていました、
 最近はずでに次男、三男のことに気を取られ、新
 たにそれどころではなくなっていますが（笑）。それ
 にしても3月～4月はとにかくバタバタでした。
 特に長男は3月中旬生まれのため、自動車免許の
 取得開始が周りのみんなより遅く、時期的に混雑
 していたため、運転教習の予約も思う通り取れず、
 電話予約が取れたら取れたで学校までの送迎も必
 要で、なんとか仮免許までは地元で取得できたも
 のの、路上教習は間に合わなかったため、自動車
 学校の転校手続きも必要となりました。転出転入
 以外の手続きでも戸惑うことが多く、かみさんと

手分けしながら何とかこなしました（他の先生方はこれを難なくこなすのでしょうか?）。まだ助かったことは、進学先に義母の自宅があることで、しばらくは同居してもらい、入居先を探したり、家電品等、引っ越し自体の手間はさほど手間取らなかったことが救いでした。それもあってか、当の本人は車へのダンボールの積み下ろしとリュックひとつで引っ越しを終えました。自分が進学時に1から10までしてくれた親にかけた苦勞を改め

て感謝するとともに、申し訳なくも思いました。ですがおそらくこの息子は、将来私たちのように、親に引っ越しの苦勞をかけた思い出は残らないでしょう（泣）。まあ親としては、あとは自分のすべきことを頑張ってくれることを願うだけです。

あと二人同じことをするのかと思うと(><)・・・でもそれを考えるのは今はやめときます。

（コバ）



みんなの写真館

Photo
Gallery



チューリップの森



彼岸花と蝶々



雲場池



巾着田曼珠沙華

(社)茨城県南歯科医師会 中里 憲文

会 員 数

平成29年3月31日現在

支 部	会員数(前月比)
日 立	122 -1
珂 北	138
水 戸	153 -2
東西茨城	72 -1
鹿 行	105
土浦石岡	172
つ く ば	122
県 南	177
県 西	153
西 南	105
準 会 員	1
計	1,320 -4

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員	1,145名
2種会員	38名
終身会員	136名
準会員	1名
合計	1,320名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 29 年 4 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。